

お知らせ

2024年4月、「消化器センター」開設

— 地域の消化器医療の中核を目指して —

当院の消化器診療は、成人に対しては消化器内科と外科(上部消化管外科・肝胆膵外科・大腸肛門科)、小児に対しては小児科と小児外科がそれぞれ診療を行ってきました。小児から成人まで、良性疾患から悪性疾患まで、幅広い年代のさまざまな消化器疾患に対応してまいりましたが、消化器疾患に関わるこれらの診療科が一体となって連携し、よりシームレスに、より質の高い医療を行うことを目的として、2024年4月「消化器センター」を設立しました(センター長:外科部長 鈴木 一史)/副センター長:消化器内科部長 細田 佳佐)。いずれの関連診療科を受診されても、消化器センターとして診療科を越えて、最適で質の高い医療を安心、安全に提供できるよう心がけています。

➤ 消化器センターの特長

症例実績

消化器診療において、より良い治療を提供できるように研鑽を積んでいます。

症例数・・・内視鏡検査数(上部・下部内視鏡数):6,918 件/ESD(消化管における内視鏡的粘膜下層切開剥離術):197 件 等 ※2022年度実績

幅広い消化器疾患に対応し、身体にやさしい治療の提供

各診療科には各領域のエキスパートが在籍しますが、消化器センターとして臓器・領域を横断的に協力して診療を行うことにより、診断から治療まで、患者さんひとりひとりに最適な医療を検討、提供することが可能となります。また、体にやさしい治療として、早期がんに対しては消化器内科での ESD の実施、また、外科においても多くの領域で低侵襲治療を標準術式としています。食道がん、胃がん、大腸がんでは、ほとんどの手術をロボット支援下手術を含めた鏡視下手術で行っています。



小児から成人まで、切れ目のないシームレスな診療

幼小児期発症の消化器疾患患者さんに対して、小児期医療と成人期医療を繋ぐ架け橋となる移行期医療を適切に行うべく、移行支援にも注力していきます。

内視鏡専門医の資格を持つ小児科医が在籍

小児は、体が小さいことや検査が大変であるというイメージが先行して、内視鏡検査のハードルが高いという現状があります。当院では内視鏡専門医の資格を持つ小児科医が在籍し、内視鏡検査や治療に携わっている全国的にも数少ない施設の一つです。

取り上げていただける際は、下記へご一報ください。よろしくお願いいたします。

【問い合わせ先】聖隷浜松病院 学術広報室 北岡・太田 TEL053-474-2753・FAX053-474-2763